



帰国生の学校選び A to Z

●第37回●

一時帰国中の学校選びの チェックポイント（その1）

夏休みは一時帰国される方も多いでしょう。一時帰国中には、帰国後の学校選びのための情報収集をお勧めします。このコラムでは2回にわたって一時帰国中の学校選びのチェックポイントをご説明します。

まずは、学校紹介情報誌や入学案内パンフレット、ウェブサイトなどを利用して、教育方針やカリキュラムの特徴のほか、通学時間やルート、生徒数や男女比、進学実績、部活動の種類、学校行事、施設・設備などを確認しましょう。

通学時間は短いほうがよいですが、大都市圏では乗り継ぎの便、地方では通学時間帯の本数も重要です。また、学校側が通学時間や通学距離を指定している場合もあります。いずれにしても帰国生は公共交通機関を使って通学することに慣れていないため、実際に行ってみて、時間や距離、沿線の様子などを体感することが大切です。

学校の大きさは生徒数を見ると、ある程度予想できます。ただし、大規模校でも少人数教育が充実していたり、ゆったりとしたスペースがあったりする場合があります。小規模校でも活気にあふれている学校もあります。これらの様子は学校見学をして自分の目で確かめてください。また、男女共学校であっても、女子が多い学校もあります。帰国生は男女がほぼ同数でも国内生は女子が圧倒的に多い学校もあります。帰国生は男女共学志向が強いのですが、男子校や女子校も見学してみると、意外な良さを発見できるかもしれません。

進学実績では大学の顔ぶれや人数を見るだけでなく、生徒全体に占める率や帰国生の実績にも目を向けましょう。大学附属校や系列校の場合には内部進学の内容を確認することも重要です。難関大の附属や系列校に入っても、成績次第では他大学への進学を考えねばならないこともあります。また大学附属校や系列校では進学や受験を意識した生徒が少ないので、他大学への進学を目指すのが厳しいという場合もあります。進学校でも進学指導をほとんどしない学校もあります。進学実績の詳細や進学指導の様子については、学校訪問や学校説明会で担当の先生に教えていただけます。



執筆者：丹羽 筆人（文京学院大学女子中学校 高等学校 北米事務所 アドバイザー / 名古屋国際中学校・高等学校 アドミッションオフィサー 北米地域担当）

河合塾での指導経験を経て米国では CA・NY・NJ 州の補習校・学習塾にて指導。現在は
デトロイトりんご補習授業校講師。代表を務める「米日教育交流協議会」では、日本語・
日本文化体験学習「サマーキャンプ in ぎふ」を実施。他に、河合塾北米事務所アドバイザー。
お問い合わせ先：E-mail bunkyo@ujec.org Phone & Fax 855-926-1140 (文京学院)
E-mail nihs@ujec.org Phone & Fax 855-669-9300 (名古屋国際)